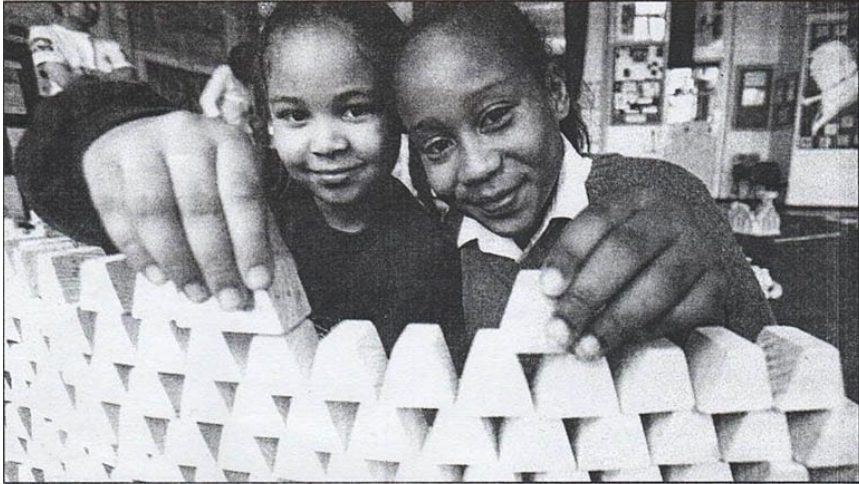


## 英国紙が報道した「楽つみ木広場ワークショップ」！

子供たちは、日本のおもちゃで積み木パーティを体験した。

WB MAY 24, 2006

### Youngsters have a block party with Japanese toy



Chante Green and Allana Worrell, top, and Mariyan Bashir and Maria Bhatti, bottom, get creative. Deadline: FK1047

These impressive towers have been put together by children from Swaffield School, who were taking part in a tsumiki workshop.

Masayuki Ogino, a craftsman carpenter from Yamanashi Prefecture in Japan, started making the wooden building blocks eight years ago for his son.

Using cut-offs and wood from managed forests, he made thousands of blocks with just three designs.

Mr Ogino said he started attending craft fairs with the blocks and was amazed by the children's response to a pile of tsumiki left on the table and began to develop a series of workshops for schools.

"The workshops are about more than just playing with bricks – the children learn a lot about themselves and their friends," he added. "Even the most distracted children are totally absorbed in their task."

His voluntary workshops have been enjoyed at schools throughout Japan and he is now giving free workshops to primary schools in London.

**m interiors**  
made to measure  
...bespoke furniture...  
carpentry

### 記事概要

これらの印象的な塔は、スワフィールド・プライマリー・スクールの積み木ワークショップに参加した子供たちが作り上げた。

日本の山梨県からやってきた工芸家の荻野雅之。彼は8年前、自分の息子のために積み木を作り始めた。

森を管理するために伐られた間伐材を使い、彼は、何千もの積み木をたった3つのデザインで作り出す。

荻野氏によると、クラフトフェアに参加し、机の上に積み木を置いたところ、子供たちの大きな反響に驚かされた。それが学校でのワークショップのシリーズ開催へと発展した、という。

「このワークショップは、単なる積み木遊びではなく、子供たちが自分自身や友達について多くを学ぶのです」。彼は語る。そして「どんな落ち着かない子供でも、全く作業に夢中にさせてしまう」と付け加えた。

彼のボランティアなワークショップは、日本全国の学校で楽しく実践され、そして、今回ロンドンのプライマリー・スクールでフリーワークショップとして開催している。

## 丸の内キッズフェスタで伝えたいこと。

○旧丸ビルの松杭の積み木――過去からの伝言

○間伐ヒノキの楽つみ木――未来への提言

時（とき）（歴史、年輪、過去、現在、未来）をきざみ、支え、  
それぞれの時の二酸化炭素 CO<sub>2</sub> を貯金した

楽つみ木と松杭の積み木

大勢の子ども達が、たくさんの積み木立ちと、失敗と成功、協力をくり返しながら、  
時間を蓄積しながら、  
積み木で未来を築きます。

東京国際フォーラム「丸の内キッズフェスタ」では、戦前、日本経済の中核と言われた旧丸ビルの基礎を支えた松杭で作った貴重な「松杭積み木」を使います。

「松杭積み木」は、今から 86 年前の 1923 年完成した東京丸ビルの基礎杭として使われていた 5443 本（1 本 15m × 30cm）のうち、30 本を楽つみ木研究所が三菱地所から譲り受けて、平成 10 年に製作したものです。

この松杭は、米国シアトル南部のパインの森から伐り出され、シアトルから船で横浜へ、そして大八車で丸の内まで運ばれてきました。丸ビルの基礎杭としておよそ 80 年間巨大な建造物全体を支え、近代日本の鼓動を刻み続けたのです。

木楽舎工房で最初に松杭を切って驚いたことは、断面の美しさが衰えていなかったことでした。まだ脂(やに)を含んでいて水をはじく。ものすごい松の生命力。それは今、「松杭積み木」として、子どもたちに、時代、歴史を見つめた貴重な伝言を伝えているのです。

この旧丸ビルの松杭原木は、現在、東京駅前・丸ビルの行幸通り側エントランス床に保存公開されています。旧丸ビルから掘り出された状態のまま、解体されるまでの 1923 ~ 1999 の年号が刻まれ、横には、それによって型どられたブロンズの松杭に 2002 年から年号が刻まれています。

「Mの記憶」というアート作品です。

「松杭積み木」のレポートはこちらにも掲載されています。(クリック)

楽つみ木広場では、たくさんの積木を使います。素朴な 3 つの種類だけですが、創意、工夫、時を忘れ、協力の心、失敗のくやしさを、出来たときの感動、自覚の心、美しさへの感動、連帯感、友とつくりあげる楽しさ、一步一步、子どもたちの心の変化し、積み木の立体創形も美しく、変化していきます。小さな芸術家、建築家でしょうか。皆んな「子ども力」に気がついていきます。大人の方も、心洗われるときと思います。

また「楽つみ木」は、森の再生にも力を貸します。森の再生のため、手入れの中で、一部の木を伐り出します。これを間伐と言います。この間伐材を有効利用しようと考え、誕生したのが「楽つみ木」です。

楽つみ木は、温暖化の原因である二酸化炭素 CO<sub>2</sub> を楽つみ木自体に固定化された、いわば CO<sub>2</sub> の貯金箱なのです。

東京国際フォーラム「丸の内キッズフェスタ」では、北米産の松杭つみ木と、国産間伐ヒノキつみ木が、世紀の時間と空間を超えて、丸の内の地で出会い、子どもたちの手によって、一つの造形物となる。その対比はきっとおもしろい模様を描いてくれるでしょう。

(古い松杭の松はこげ茶色、木目が美しい。間伐ヒノキは白っぽくて、香りを放っている。)

※旧丸ビル基礎の松杭に関する参考情報

1. 旧丸ビル基礎に埋め込まれた松杭を紙の原料へ（三菱地所による）
2. 丸ノ内ビルヂング（旧丸ビル）の構造調査：その 8 松杭の鉛直載荷試験報告（国立情報学研究所による）
3. 二酸化炭素の地中貯蔵としての木杭（松杭）に関する調査研究（フォレストフォーラムによる）
4. 旧丸ビル・松杭に関する WEB 情報ソース（グーグルによる）